

えいらい

No.29

平成 28 年 10 月発行

発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院

秋号
2016



〒790-0067 愛媛県松山市大手町2丁目6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者 / 院長 山本祐司 編集 / 松山市民病院広報委員会

技能を継承し、医療技術を 維持、発展させる

副院長 水上 祐治



昨年からはまったいいよつ高島屋屋上でのサマーフェスティバルは今年も天気に恵まれ、開放的な気分の中で開催され大盛況でした。ビールを片手に、検査室のX氏と話をしているうちに議論になりました。挫折感を滲ませながら40年ほどを振り返り、伝えないといけないものがあるんです、との熱い思いに共感しました。(共感するだけでは満足してもらえませんでした…)大切なことですので、現状と対策について整理してみました。

技能は人に宿っていると言われていきます。人口ボリュームの大きい団塊の世代が次々とリタイアし、毎年数十万人単位で技能が失われています。世代交代は世の常であり、以前、技術は個人の努力で自然と継承されていました。しかし、現在の医療は高度化、複雑化、多量化しており、現場で先輩が新人と一緒に仕事をしているだけでは限界があります。機械化、IT化やアウトソーシングでも解決できません。

ここで技術と技能について考えてみます。技術は記録することにより客観化でき、伝達可能であるため速やかに伝播します。一方、技能は人間が持つ技に関する能力であり、その能力を直接見ることはできません。また技能は自律的に発展する性格を持ちます。技能者が自分の持っている能力を分析的に理解し、客観化できれば技術として伝えることができますが、それでもコアになるコツやカンはその人の内部にしか残りません。

技能を受け継ぐためには、技能者と一緒に仕事をするにより、「医療に対する態度、心構えを学ぶ」、「コツを繰

り返し教えてもらう」あるいは「じっとよく観て技の隠れた部分を修得する」しかありません。

ところで、技能は何歳になっても上達への余地が残りますし、完全な医療者はいません。達人でないから技能者ではない、伝承者の資格はない、ということではありません。熟練者の滑らかで、理にかなった行為は無意識でやっても長年、黙々と努力し、積み重ねて獲得したものに支えられています。初心者では技術解説書通りにやってもぎこちない動きになり、作業、処置の出来上がりに差が出ます。ここに伝えるべき技能があります。

今、医療内容は日進月歩で進化しています。スピード感を持って伝承する必要があります。伝承された者は学習、実践、修得、発展、継承の好循環を維持しなければなりません。

それでは技能継承の方法についてまとめます。

- ①伝承者は熱意を持って教え、継承者は素直な気持ちで修得する。
- ②伝承者は伝える内容をできるだけマニュアル化し、伝えきれないところは、繰り返し現場で実践しながら教え込む。継承者は日々の経験を大事にし、次に生かす。
- ③職場全体でOJT(On the Job Training)の質を上げる努力をし続ける。

困難な場面に遭遇したとき、頼りになるのは実践できる医療行為です。病院全体で技能継承の気持ちを共有しましょう。

検査室、X氏の奮闘と貢献に敬意を表して。